

2. 次期学習指導要領改訂の方向性

これまでの中教審の議論の経過と今後のスケジュール

- 平成26年11月 中央教育審議会総会
「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問
- 平成26年12月 教育課程部会
・教育課程企画特別部会を設置
- 平成27年1月 教育課程企画特別部会（第1回）
↓
新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、
教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り
方等に関する基本的な方向性について、計14回審議
- 平成27年8月 教育課程企画特別部会（第14回）
教育課程部会
・「論点整理」をとりまとめ
- 平成27年
秋以降 論点整理の方向に沿って教科等別・学校種別に専門的に検討
- 平成28年 教育課程部会又は教育課程企画特別部会における議論を踏まえて、審議のまとめ
- 平成28年度内 中央教育審議会として答申

(小学校は32年度から、中学は33年度から全面実施予定。高校は34年度から年次進行により実施予定。)

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）

平成26年11月20日 文部科学大臣

（冒頭）

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています。 . . .

「文部科学省 論点整理」で検索



[会見・報道・お知らせ](#)

[政策・審議会](#)

[白書・統計・出版物](#)

[申請・手続き](#)

[文部科学省の紹介](#)

[教育](#)

[科学技術・学術](#)

[スポーツ](#)

[文化](#)

[トップ](#) > [政策・審議会](#) > [審議会情報](#) > [中央教育審議会](#) > [初等中等教育分科会](#) > [教育課程部会](#) > [教育課程企画特別部会\(第7期\)](#) > [教育課程企画特別部会における論点整理について\(報告\)](#)

○教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)



平成27年8月26日
教育課程企画特別部会

このたび、教育課程企画特別部会論点整理がとりまとめられましたのでお知らせいたします。

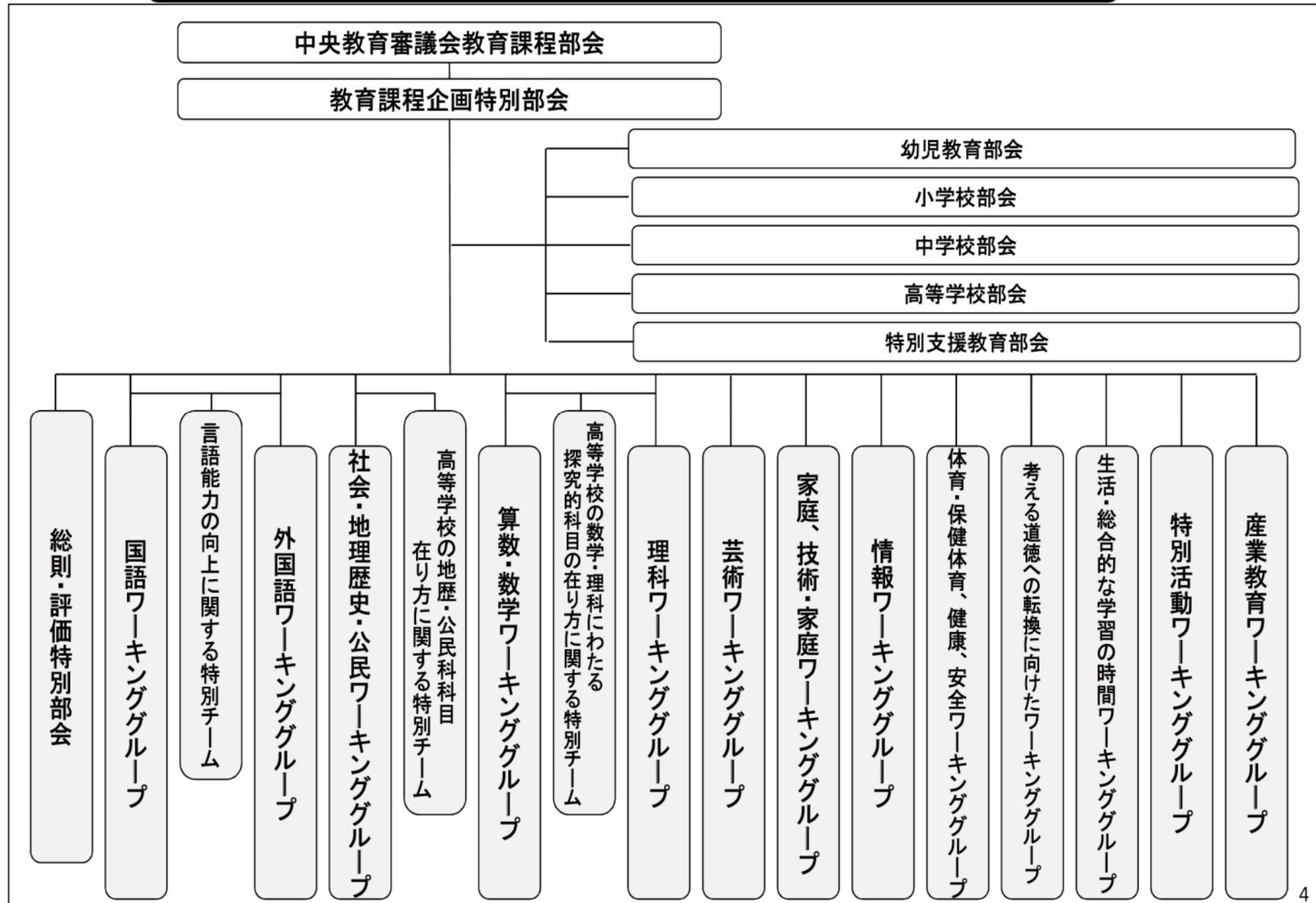
- [教育課程企画特別部会 論点整理 \(PDF:476KB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(1\) \(PDF:3636KB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(2\) \(PDF:3597KB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(3\) \(PDF:3264KB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(4\) \(PDF:3516KB\)](#) 
- [教育課程企画特別部会 論点整理 補足資料\(5\) \(PDF:3488KB\)](#) 

映像資料

- [学習指導要領改訂の方向性について\(※Youtube文部科学省動画チャンネルリンク\)](#)
「教育課程企画特別部会 論点整理」に関する映像資料を公開いたしました。(10月26日)

次期学習指導要領改訂に向けた検討体制

平成27年8月26日
教育課程部会了承



学習指導要領改訂のポイント(「教育の強靱化に向けて」平成28年5月10日)

急激な社会的変化の中でも、子供たちに未来の創り手となるために必要な知識や力を育むため、以下のような方向性で学校の教育課程を充実。

- 「ゆとり教育」か「詰め込み教育」といった、**二項対立的な議論には戻らない**。知識と思考力の双方をバランスよく、確実に育むという基本を踏襲し、**学習内容の削減を行うことはしない**。

高校教育については、些末な事実に知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

- 学校教育のよさをさらに進化させることを目指し、「学校教育を通じてどのような力を育むのか」を明確にして育成する。

「**アクティブ・ラーニング**」の視点は、**知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身に付くことを目指すもの**。**知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を行う**。

①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点。特に「深い学び」こそが質の高い理解に不可欠。

- こうした方向性のもと、必要な教科・科目構成等の見直しも行う(小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共(仮称)」等の新設など)。

**本年度中に学習指導要領を改訂し、
2020年から順次実施。**

高等学校は来年度改訂

学習指導要領改訂の方向性（案）

平成28年5月23日
教育課程部会
総則・評価特別部会
資料3-1

新しい時代に必要な資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

深い学び

対話的な学び

主体的な学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

各学校段階を通じた教育のイメージ（検討案）

平成28年6月1日
教育課程部会
高等学校部会
資料3

【高等学校】

⇒主に生涯にわたる社会生活やより主体的な社会参画、その後の専門的な学習のために必要となる 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【中学校】

⇒主に生涯にわたる社会生活の基盤となる 資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【小学校】

⇒主に日常生活から身近な社会生活を送るにあたり必要となる資質・能力

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性

【幼児教育】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量・図形、文字等への関心・感覚

言葉による伝え合い

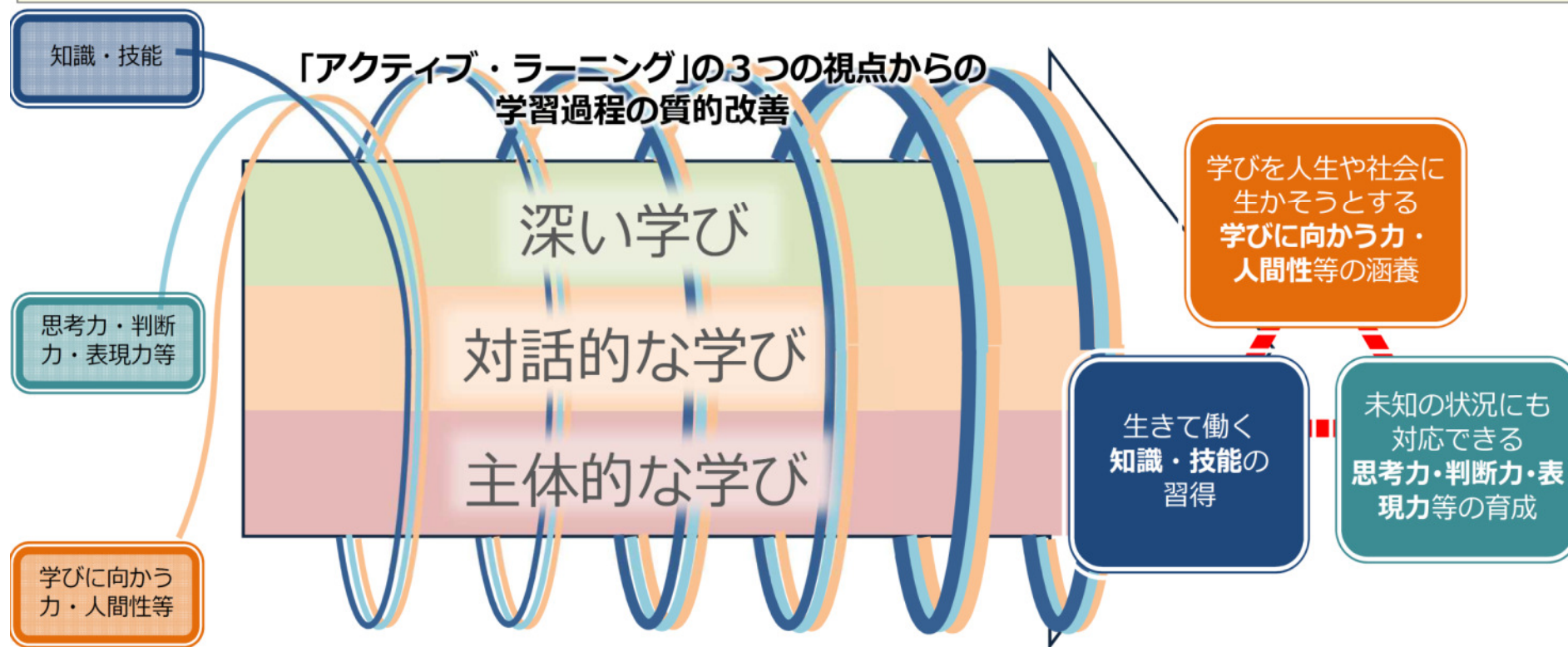
豊かな感性と表現

- 「義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何か」、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、初等中等教育の出口のところで身に付けておくべき力を明確にしながら、幼・小・中・高の教育を、縦のつながりの見通しを持って系統的に組織していくことが重要（「論点整理」より）
- これを踏まえ、小・中・高については、育成すべき資質・能力の三つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」）に沿って、各学校段階で育成すべき資質・能力を明確化することがしてはどうか。
- その上で、学習指導要領・総則において、各学校段階の教育を通じて育成すべき資質・能力として示すこととしてはどうか。
- なお、幼児教育については、三つの柱に沿って資質・能力の育成を行うが、遊びを通しての総合的な指導の中で一体的に育まれるため、5歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として整理している。

資質・能力の育成と

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）（案）

- ◆ 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これにより、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成すべき資質・能力を身につけるために必要な学習過程の質的改善を実現する。
- ◆ 資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることなども含む。



※ 基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合においても、「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなどが重要である。

アクティブ・ラーニングの三つの視点

- i) 習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる「深い学び」が実現できているか。
- ii) 子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める、「対話的な学び」が実現できているか。
- iii) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

観点別学習状況の評価について

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。
⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

学力の3つの要素と評価の観点との整理

【現行】

学習評価の 4 観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

知識及び技能

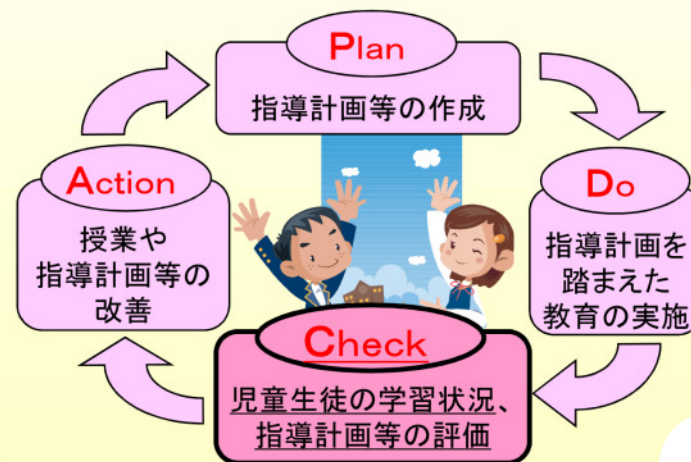
思考力・判断力
・表現力等

主体的に学習に
取り組む態度

学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。

指導と評価の一体化



次期学習指導要領改訂に向けて



最近よく「アクティブ・ラーニング」という言葉が出てるけど…。グループでの話し合いはいつもやってます！何か新しい手法なの？

「カリキュラム・マネジメント」…。マネジメントするのは管理職でしょ。



その疑問に
お答えします！

- 教育課程特別部会における論点整理について(報告)

論点整理

検索

- 次期学習指導要領改訂へ向けた解説動画
【文部科学省動画チャンネル】

学習指導要領改訂 解説動画

検索

社会に開かれた
教育課程

育成すべき
資質・能力の
明確化

アクティブ・
ラーニング
の視点から
の学習・指
導方法の
改善



カリキュラム・
マネジメント
の充実

「論点整理」
～新しい学習指導要領
が目指すべき姿～

私たちが社会で活躍する2030年頃の
社会ってどうなっているんだろう？

- 人工知能の進化やグローバル化など、社会の変化が加速度的となり、未来を予測することが困難な時代です。
- 社会がどのように変化しても、多様な人々とのつながりを保ちながら自らの人生を切り拓き、新たな価値を生み出しながら持続可能な社会を創造していくことが重要になります。

学校教育の役割
とは？

「論点整理」では、新しい学習指導要領が目指すべき姿を示しています。「社会に開かれた教育課程」の理念の実現へ向けて、「カリキュラム・マネジメント」の充実など、今からでも実施できることについてはぜひ取り組んでいきましょう。

〈各学校にお願いしたいこと〉

○ 児童の実態把握

例えば、自校の結果を県平均と比較して、良かった点は継承し、課題については具体的な改善策をもつ。

○ 授業改善

例えば、めあてや振り返りを計画的に取り入れたり児童の考えをノート等に表現させる活動を位置付けたりするなど、個々の教員が課題意識をもつ。

○ 校内研修の充実

例えば、本日配布したDVDの動画を活用して研修をもつなど、学校全体で取組を進める。

〈各学校にお願いしたいこと〉

○ 広域での高め合い

例えば、中学校区の先生方で域内の課題等を共有し、効果的な実践などについて意見を交流する。

○ 家庭・地域への発信

例えば、児童質問紙調査から見られる傾向等について発信し、家庭・地域それぞれの役割を確認し合う。
(「家庭学習の手引き」の活用)